

七人さきのおやじさま

(7分)

劇団 オン・サンタ

むかし あったとき

一人の旅人が日の暮れ時に一軒の立派な家にたどり着いた：それは堂々としたお屋敷で まるで小さなお城のようだった：

「ここなら ゆっくりとめてもらえるだろう」

そう旅人は考えて 門を通って中に入っていった：すると庭では白いひげを生やしたおじいさんが 薪を割っていた：

今晚は おやじさま：一晩泊めていただけませんか」

と 旅人があいさつをすると白いひげのおじいさんは：

1



劇団 オン・サンタ

「跽声」わしはこの家の主人ではない：だが台所へ行ってわしのおやじどのに話してごらん」といったので旅人は台所に行った：

台所にはもっと年をとったおじいさんがいて かまどの前にひざをついて 火を吹いていた：

今晚は おやじさま：一晩泊めていただけませんか」

「低音・早口」わしはこの家の主人でない：食堂へ行ってわしのおやじどのに話してごらん：

そこで旅人は 食堂にいった：するとさっきの二人よりずっと年寄りのおじいさんがテーブルを前に座っていた：そうしてぶるぶる体を震わせカチカチと歯を鳴らしながら子どものように大きな本を読んでいる：

今晚は おやじさま：一晩泊めていただけませんか」

2





「高音・震え声」わしはこの家の主人でない：居間にいるわしのおやじ  
どのに話してごらん」

そこで旅人が居間へ行くと深いソファに腰掛けた年寄りがいた：その人  
はテーブルにいたおじいさんよりもっと年寄りで パイプを吸おうとし  
ているのだが 体が縮まっていて手が震えるもので パイプを握ってい  
られなかった：

今晚は おやじさま：一晩泊めていただけませんか」

「低音・震え声」わしはこの家の主人でない：だが 隣の部屋で寝てい  
るわしのおやじどのに話してごらん」

旅人が隣の部屋にいくと これまでの四人よりもっと年寄りが横になっ  
ていた：生きているしるしといえば 大きな目が時々まばたきすること



3

ばかり：

今晚は おやじさま：一晩泊めていただけませんか」

「かすれ声」わしはこの家の主人でない：だが 奥の部屋で眠っている  
わしのおやじどのに話してごらん：声をかければ目を開けるよ」

そこで 旅人が奥の部屋へいくと そこにゆりかごがあって ゆりかご  
の中には赤ん坊ほどに縮まった大変な年寄りが寝ていて ようやく生き  
ていることがわかるのは 時々のをぜいぜい鳴らすためだった：

今晚は おやじさま：一晩泊めていただけませんか」

：返事がない：

今晚は おやじさま：一晩泊めていただけませんか」

だいぶたってから返事があった：それはやはり自分がこの家の主人では

4



ないということだ：

「途切れ声・ゆっくり」だがな：わしのおやじどのに 話してごらん：  
おやじどのの 壁にかけた 角の中にござるでな」というのだった：  
こんな小さくなったおじいさんにまだ親がいるのか：と旅人が驚いて壁  
の上を見上げると：天井から下げてある大きな角の中に何かモヤモヤと  
薄黒いものがあって よくみると それは小さな小さな人の顔だった：  
旅人はびっくり仰天していった：

今晚は おやじさま：一晩泊めていただけませんか」

すると子ねずみのような小さな声でようやく聞き取れたのはこうだった

：

よ・ろ・し・い……」



よろしい……という言葉が聞こえると 突然部屋が明るくなった：

そしてテーブルにはご馳走が山のように並び お酒も次々出て 旅人は

おなかいっぱいになるとやわらかいベッドに寝て 楽々一晩泊めてもら

いましたとき

いっちゃんぽーんさけた

おしまい

《参考資料》

『世界のむかしばなし』 瀬田貞二編 のら書店